

令和元年の台風災害への対応について

令和2年3月6日

消 防 庁

令和元年9月 房総半島台風(台風第15号)における消防機関の活動

被害の状況

- 9月5日に発生した台風は、強い勢力を保ったまま、9日3時頃に三浦半島付近を通過し、5時前に千葉市付近に上陸
- 関東地方では9日朝にかけて猛烈な大雨
- 最大瞬間風速が東京都神津島村で58.1m、千葉市で57.5mを観測するなど、関東地方南部で猛烈な風を観測
- 千葉県**では、**暴風により多数の住宅の屋根瓦が飛散し**、被災地域では**ブルーシート等による応急措置**に迫られた。
- 千葉県を中心に最大約93万5千戸の大規模停電**が発生
- 暴風の影響により、**千葉県内の計27市町村**において、**防災行政無線の屋外スピーカー等でアンテナ破損やバッテリー切れ**による不具合が発生

強風により屋根瓦が飛散した千葉県館山市の状況(提供:千葉市消防局)



※消防庁とりまとめ報第40報(令和元年12月23日15時00分現在)より

	人的被害		住家被害					合計
	死者	負傷者	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	
全国合計	3名	150名	391棟	4,204棟	72,279棟	121棟	109棟	77,104棟
うち千葉県	2名	82名	363棟	3,929棟	62,986棟	34棟	57棟	67,369棟

消防機関等の活動

- **千葉県内の消防本部**では、主に以下のとおり活動。
 - ・戸別訪問による安否確認
 - ・自衛隊等と協力した**ブルーシート等による家屋の応急補修、倒木の除去活動**※なお、**県内応援**として11市の消防本部が、**ブルーシート敷設、がれき・倒木の撤去・処理、土嚢作成**等を被災地にて活動
- **消防団**では、主に以下のとおり活動。
 - ・**ブルーシート等による家屋の応急補修**等の二次災害防止活動
 - ・**土砂や倒木等の除去、避難所の運営支援**等の地域貢献活動
 - ・**住民の安否確認**のために戸別訪問を実施する「**ローラー作戦**」
- その他、**防災行政無線に不具合が発生した地域**においては、**消防団、自治会、民生委員**等により、**戸別訪問、ビラ撒き、広報車巡回**等を実施し、地域住民へ防災情報を伝達



ブルーシートによる家屋の応急補修活動
(提供:習志野市消防本部)

令和元年10月 東日本台風(台風第19号)及び前線による大雨における消防機関の活動①

被害の状況

※消防庁とりまとめ報第64報(令和2年1月10日10時00分現在)より

- 10月6日に発生した台風は、大型で強い勢力を保ったまま、12日19時前に伊豆半島に上陸し、関東地方を通過
- 台風の接近・上陸により、10日から13日までの総降水量が東日本を中心に17の地点で500ミリを超える大雨
- 12日15時30分以降、1都12県に大雨特別警報が発令
- 台風が温帯低気圧に変わった後も関東地方から東北地方の広い範囲で断続的に雨が降り、特に千葉県や福島県では記録的な大雨
- 台風とその後の大雨により、**東北地方の太平洋側や関東地方を中心に河川の氾濫、堤防の決壊による浸水、土砂崩れ**が発生
- 千曲川(長野県)、阿武隈川(福島県)をはじめ74河川の140箇所**で**堤防が決壊**

	人的被害			住家被害					
	死者	行方不明者	負傷者	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	合計
全国合計	99名	3名	380名	3,225棟	28,811棟	31,735棟	7,776棟	22,592棟	94,139棟
うち宮城県	19名	2名	42名	303棟	2,964棟	2,659棟	1,580棟	12,326棟	19,832棟
うち福島県	32名		59名	1,447棟	12,221棟	6,614棟	1,081棟	407棟	21,770棟
うち長野県	5名		44名	918棟	2,498棟	3,448棟	8棟	1,420棟	8,292棟



宮城県丸森町の浸水被害の状況
(提供: 山形県消防防災航空隊)



福島県いわき市の浸水被害の状況
(提供: 埼玉県防災航空隊)



長野県長野市の浸水被害の状況
(提供: 埼玉県防災航空隊)

消防機関の活動

- 宮城県、福島県及び長野県に対して、緊急消防援助隊が出動
- 消防防災ヘリコプター、救助ボート、水陸両用バギー車等を活用した救助活動により**173名**を救助
- 消防団では、主に以下のとおり活動。
 - ・住民に対する**避難の呼びかけ**や河川等の**危険箇所の警戒、土のう積み**等の活動
 - ・**行方不明者の捜索、ブルーシート**等による家屋の**応急補修**等の二次災害防止活動
 - ・**土砂や倒木等の除去、避難所の運営支援**
 - ・**住民の安否確認**のために戸別訪問を実施する「**ローラー作戦**」



長野県長野市 救命ボートによる救助活動
(提供: 総務省消防庁)



千葉県山武市 中型水陸両用車による救助活動
(提供: 山武郡市広域行政組合消防本部)

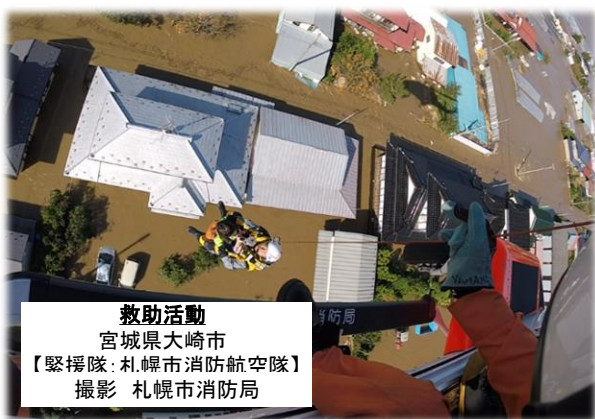
緊急消防援助隊の活動

1 出動状況

- 10月13日に宮城県知事、福島県知事及び長野県知事からの応援要請があり、緊急消防援助隊が各県に出動した。
- 10月15日、災害の状況(甚大性、広域性)等を踏まえ、この災害の緊急消防援助隊の出動は、消防組織法第44条第5項に基づく消防庁長官による「出動の指示」によるものとした。(過去に「出動の指示」を行った事例は、東日本大震災及び平成30年7月豪雨)

2 活動規模 緊急消防援助隊の活動期間 10/13～10/18 6日間

陸上	航空(ヘリ)	救助実績
1都4県3市 延べ770隊 2,708人	1都6県5市 延べ39機 270人	171人



令和元年の大規模災害を踏まえた消防防災体制の強化① (令和2年度消防庁予算案及び令和元年度消防庁補正予算)

緊急消防援助隊の充実強化

1 水陸両用車

- 津波や大規模風水害による浸水地域等において、効果的に消防活動を実施する大型、中型、小型(津波・大規模風水害対策車に含まれる)の水陸両用車及びその搬送車



【津波・大規模風水害対策車】



【中型水陸両用車】

2 救命ボート及び重機

- 豪雨災害時の救助活動を行うため、車椅子ごと救助することも可能な高機能な救命ボート
- 土砂崩れが発生した際、速やかに土砂中から要救助者を救い出すための重機



【高機能救命ボート】



【重機】

3 水上オートバイ及び情報収集活動用ドローン【新規】

- 救命ボートでの活動が困難な場合にも、迅速かつ効果的な救助活動を展開するため、頑丈な船体と機動性・操作性に優れた水上オートバイ
- 近接できない災害現場等において、上空からの迅速な状況把握や要救助者の捜索など、情報収集活動を実施するためのドローン



【水上オートバイ】

4 消防庁ヘリコプターの復旧

- 令和元年東日本台風(台風第19号)により、点検整備中であった消防庁ヘリコプター5号機が損傷



【消防庁ヘリコプター】

【緊急消防援助隊の車両・資機材の配備状況】

	既配備数(※)	R1補正	R2当初	合計
大型水陸両用車	1	-	1	2
中型水陸両用車	5	-	1	6
小型水陸両用車	42	-	5	47
救命ボート	36	15	14	65
重機	41	-	9	50
水上オートバイ	-	6	-	6
ドローン	20	15	-	35

※ R 1 末の配備見込みを含む



【ドローンを使用した情報収集】

令和元年の大規模災害を踏まえた消防防災体制の強化② (令和元年度消防庁補正予算)

戸別受信機の導入促進事業

①無償貸付

- ・ 戸別受信機の配備計画を策定する市町村に対して、無償貸付により配備を支援。
- ・ 現在の配備数が少ない市町村を中心に選定し（50市町村程度）、**1万台程度を無償貸付**。
- ・ 本事業に取り組む市町村には、単独事業（特交措置※）により無償貸付と同程度の配備（5千～1万台）を求める。



市町村が策定した配備計画を参考に、配備先に関するガイドラインを作成・周知することを通じて、全国の市町村の更なる配備を促進

②個別訪問・モニター事業

- ・ 戸別受信機が未配備の市町村を個別に訪問し、実機を用いたデモンストレーションを行うとともに、10戸程度の実証配備によるモニター利用を実施。
- ・ 訪問対象：防災行政無線は整備しているが、戸別受信機を未配備の約100市町村



未配備の市町村に、戸別受信機の有効性への認識を深めていただくとともに、作業工程等、今後の配備に向けた取り組みを支援